

OPT ISO BOX の導入(12)(HP 収載)

—録音音源の音質(2)—

1. 始めに

前報(11)に引き続き配信音源の録音を行います。

2. OPT ISO BOX の録音と試聴計画

前報(11)同様、Petit Susie Solid State 適用の OPT ISO BOX をルーターとスイッチングハブ間およびスイッチングハブと PC 間の LAN 接続への適用とし、下記の録音ルートと音源を取り上げます。

ルーター→スイッチングハブ→PC→Sonica DAC→TASCAM DA-3000

TASCAM DA-3000 には、ABS-7777 からクロックを入力し、5.6MHzDSF で録音します。

録音対象音源は、前報(11)ではベルリンフィルデジタルコンサートホールと STAGE+でしたが、今回は配信元を拡大した次のとおりです。

Spotify

バッハ リュート組曲 1 番～4 番

Alberto Crgunola (リュート)

CONCERTGEBOUWORKEST (コンセルトヘボウの配信サイト)

ワーグナー タンホイザー序曲

ガッティ指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

YouTube

リスト ラ・カンパネラ

アリス・紗良・オット(ピアノ)

東京春の音楽祭 2025 (リアルタイムライブ)

J.シュトラウス 1 世他 ワルツ《喜びの挨拶》他

伊藤亮太郎(ヴァイオリン)他アンサンブル

バッハ他 トッカータ ホ短調他

西山まりえ (チェンバロ)

NHK+ (E テレ)

マーラー 交響曲第 2 番ハ短調「復活」

カーチン・ウォン指揮日本フィルハーモニー交響楽団

再生は、録音音源を fidata HFAS10-S1 にコピーし、次の経路で再生します。

fidata HFAS10-S1→iFi micro iDSD BK

また、TEAC Hi-Res Editor で PC 収納音源を読み出し、Sonica DAC 経由で再生します。

3. OPT ISO BOX の録音の試聴結果

TEAC Hi-Res Editor で録音音源の PC 収納音源を読み出し、Sonica DAC 経由で再生した試聴結果は、次のとおりです。

Spotify からの配信のバッハのリュート組曲は、ロスレスでない Spotify からの配信とは思えないほど、リュートのピッキングや胴鳴りがリアルです。

コンサートへボウの配信サイトである CONCERTGEBOUWORKEST からの配信のワーグナーのタンホイザー序曲は、これまでになく大編成のオーケストラの音が緻密になっており、コンサートへボウのホールトーンもリアルになっています。

YouTube からの配信のリストのラ・カンパネラは、アリス・紗良・オットのピアノの抑揚、強弱など、ダイナミズムがこれまでになく再現されています。

東京春の音楽祭 2025 のシュトラウスのワルツなどは、リアルタイムライブからの録音ですが、ピアノやヴァイオリンやコントラバスのステージ感が再現されています。

おなじく東京春の音楽祭 2025 のチェンバロは、リアルタイムライブからの録音であり、博物間の講堂での演奏ですが、チェンバロの音が極めてリアルに捉えられています。

NHK+ (E テレ) からの配信のマーラーの交響曲第 2 番「復活」は、冒頭のコントラバスの斉奏は歯切れよく量感もあり、木管の質感やマーラーらしい盛り上がりのダイナミズムもあります。

4. まとめ

前報(11)のベルリンフィルデジタルコンサートホールと STGE+に加えて、上記の 5 つの配信サイトからの配信音源の DSD 録音においても、FX Audio の Petit Susie Solid State を適用した OPT ISO BOX のルーターとスイッチングハブ間の LAN 接続への適用の効果を認めました。

以上